

北海道横断自動車道（黒松内～余市）

計画段階評価の試行

平成23年1月20日

国土交通省 北海道開発局

目 次

1. 参考資料 1

「地元企業等における道路利用の工夫、努力」

2. 参考資料 2

「教育（通学）」

3. 参考資料 3

「地域戦略、地域計画」

4. ニセコ町観光振興計画（H21.3ニセコ町） 抜粋

○地元においては、食の流通・販売・体験の各場面で、様々な取組を行っている。

▼地元企業の工夫・努力 【確実にお届けする努力】

サクランボは、関東・関西へ
新千歳空港から空輸して
います。大切な商品が
確実に届くように、
**航空便の時間に合わせて
収穫作業をしています。**

【買いに来てもらう努力】

観光業者と農・水産業者が連携して、
**収穫祭やその季節限定
の新鮮な産品を販売する
イベントなどを開催して
しりべしの食に触れる
機会を増やしています。**

【食育の場を提供する努力】

**農水産業の体験学習の
プログラムを子供達の
教育旅行へ活用して
もらってます。**食育の場、
産業体験の場として好評
です。

食の流通
ニーズに合った食材をお届けするために
「食の流通」の明日
人気の食の恵みをもっとお届けできる
ようになります。
●地元産の食材をもっと早くお届けできるようになります。
●お客様からのニーズの多い、見えない商品でもお届けできるようになります。

食の販売
お越し頂いた方が食べられる味
「食の販売」の明日
ここにないと思えない味を
実現してみたいです。
●地元産の食材をもっと早くお届けできるようになります。
●お客様からのニーズの多い、見えない商品でもお届けできるようになります。

食の体験
しりべしの食の恵みを五感で感じる
「食の体験」の明日
食の恵みの営みを体験してもらいやすくなります。
●多くの方に食べてもらい、しりべしの食の恵みを体験してもらいやすくなります。
●お客様からのニーズの多い、見えない商品でもお届けできるようになります。

北海道横断自動車道「黒松内～余市」の活用で
しりべしはもう北海道・日本全国の豊かな明日が実現します。

【鮮度を保って輸送する努力】

**鮮度保持に効果のある光触媒を
搭載した保冷コンテナ**でお届け
したサクランボは、収穫時そのま
の色つやで東京に到着し、
おいしいと大人気でした。



【付加価値を高める努力】

生産者からのおすすめの
食べ方を書いたコメントを
産品に付けたり、**生産者が
自ら売れ行きを把握する
システム**を活用して、常に
新鮮な産品を補充すると
いった努力をしています。



【食の営みに触れてもらう努力】

観光業者と地元の漁師が
共同で企画し、中学生の
皆さんに漁船への乗船や、
ホタテ養殖の作業をして
もらうなど、
しりべしの営みを体験してもらっています。



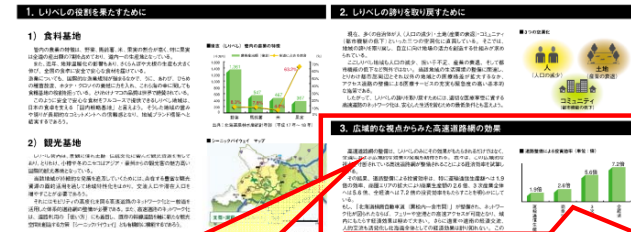
出典：今日と明日をつなげるしりべし
(しりべしに高速道路を実現する会 平成21年12月)

▼道路整備がもたらす効果①



モビリティの高度化を。 ～しりべしの役割を 果たし、誇りを取り戻すために～

北海道大学農学部 教授
阿部 英明氏



全経済で7.2倍！



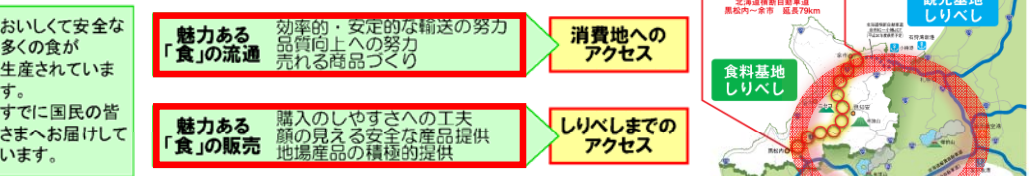
道路整備による投資効率は、特に運輸通信
生産額へは1.9倍の効率、商圏エリアの拡
大により商業生産額の2.6倍、3次産業全体
へは**7.2倍の投資効率**をもたらすことを明ら
かにしている。

出典：日本の明日は「しりべし」にあり。(平成20年11月しりべしに高速道路を実現する会)

▼道路整備がもたらす効果②

ループ状ならば確実に輸送・移動できるようになります。

平成12年の有珠山噴火時には主要な交通網が寸断され、北海道経済全体に多大な影響を及ぼしました。
高速道路がループ状につながることにより、平常時だけでなく災害時にも人や物の流動が確保されるようになり、
北海道はもとより全国の産業支援につながります。



出典：北海道のみちづくり リレーシンポジウムしりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2010
後志の戦略的発展の実現に向けて～今日と明日をつなげるしりべし～



【農業】
後志地区農業協同組合町会・会長 石田 光吉氏
●農産物は定時に定量を安定して市場に届けことが
常態としての絶対条件。消費地に短時間で出荷で
る高速道路は産業を支える道路として必要。
●農業など地域産業を守って行く、後継者である若い
世代が、安心して生産でき、安心して暮らせる生活
環境を実現するために、高速道路はなくてはならない
ものである。



【経済商工】
倶知安商工会議所・会頭 川上 正宏氏
●冬の峠は、物流の上で後志地域の経済発展について非
常に大きな障害である。
●高速道路を活用し、農業、水産業、観光業が振興され
れば、それに伴い商業も必ず振興する。
●日本の食料基地、人々を惹きつけるリゾート地としての役割
を果たす地域を実現していくための社会基盤として高
速道路が必要である。

出典：後志の道づくり2008今こそ考えよう！ 北海道の「みち」と「くらし」

〇地元においては、訪れやすさ・巡りやすさ・移住しやすさの各観点で、様々な取組を行っている。

▼地域の取り組み

【多彩なメニューの提供】

多彩なレジャーメニューの提供やイベントの実施、景観を楽しむポイント整備
など皆さまの楽しいひとときを演出しています。



【魅力を高めるルートの開発】

お客様の心に残る旅となるよう、**隣接地域と連携し、多くの観光資源を巡るルートを開発・提案**しています。



「しりべしの観光」の今日。

訪れやすさ
パウダースノーだけではなく多彩な魅力
しりべしには、世界的にも評価の高いパウダースノーを求めて、国内だけでなくヨーロッパやアジアの遠方からも多くの観光客が訪れます。しりべしの観光の大きな魅力は、美しい自然と、雪の文化が、訪れる人々に心地よい旅を提供することにあります。

巡りやすさ
興味や趣味にあわせて巡る楽しさ
しりべしには、雪の文化から多くの観光資源が点在しています。自然や雪が与えてくれる癒し、雪の文化から学ぶ歴史や芸術や感性に触れる機会を求めて、それぞれの目的や興味に合わせて、様々な観光資源を巡ることが可能です。初めて訪れる方も、安心して楽しめるよう、様々な観光資源を巡るルートを開発しています。

移住しやすさ
移住しやすさの各観点を、様々な取組を行っています。
移住したくなる魅力を実現
移住したくなる魅力を実現
移住したくなる魅力を実現

「しりべしの観光」の明日。

「訪れやすさ」の明日
観光地を訪れてもらいやすくなります！
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。

「巡りやすさ」の明日
多くの観光地を巡ってもらえるようになります！
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。

「移住しやすさ」の明日
田舎暮らしという魅力が堪能してもらえます！
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。
●多くの観光客が訪れてもらいやすくなります。

▼しりべしの魅力



北海商科大学商学部 教授 阿部 英明氏

しりべし管内は、景観に優れ、歴史・伝統文化に富んだ観光資源を有しており、とりわけ、小樽や冬のニセコはアジア・豪州からの観光客の魅力高い国際的観光基地となっている。

当該地域が持続的な発展を追及していくためには、点在する豊富な観光資源の面的活用を通して地域特性をはかり、交流人口や滞在人口を増やすことが必要であろう。

それにはモビリティの高度化を図る高速道路のネットワーク化と一般道を活用した体系的道路網の整備が必要である。また、高速道路のネットワーク化は、道路利用の「使い方」にも着目し、既存の幹線道路を軸に新たな観光空間を創造する方策「シーニックバイウェイ」にも有機的に機能するであろう。



出典: 日本の明日は「しりべし」にあり。
(平成20年11月しりべしに高速道路を実現する会)

▼シンポジウム等での意見

ニセコ倶知安リゾート協議会 統括業務執行理事 久野 賀策氏
倶知安・ニセコエリアでは、香港の富裕層などが、ニセコを拠点に札幌での買い物も楽しむ観光スタイルが広まりつつある。横断道の整備は、ニセコの滞在型観光の魅力を強化し、滞在型観光の実現が期待される。伊豆の群衆地震の例にもあるように、観光地への経路が少ない場合、災害は観光客の激減に繋がる。噴火可能性の高い有珠山を抱える洞爺湖地域だけではなく、ニセコとしても横断道の必要性は高い。

出典: しりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2009

後志の戦略的発展の実現に向けて～日本の明日は「しりべし」にあり～

【観光】
ニセコ倶知安リゾート協議会 統括業務執行理事 久野 賀策氏
ニセコ倶知安は観光で国内外から注目されているエリアである。今後は過半数滞在型観光地を目指す。観光の拠点として当地に滞在してもらうためには、地域の自然・アウトドア、おいしい食などの点在する優れた資源をネットワークし、景観も楽しめる道路が必要。そして、滞在中に1日は札幌に買い物に行くなど都市の魅力も味わいたいというニーズにこたえるため、早く移動できる高速道路の両方が必要不可欠である。

【自治体】
黒松内町 町長 谷口 徹氏
我々地域の町村は20年も前から高速道路ができることを前提にして、個性ある地域づくりに懸命になって取り組んできた。その結果、都市と地方の交流ができる受け皿ができていく。しかし未だ高速道路はできていない。多くの外国の方々がやってくる。千歳空港から現地まで高速道路で直通できれば、遠くから来た方々にとって安心できる大きな要素となる。私は以前から道路は福祉だと主張している。本当に地方に住んでいる人間は、命の平等が保障されていない。町で小児科をもつことは不可能。であれば安心な医療を確保するには、確実に短時間で搬送できる高速道路しかないのである。

出典: 後志の道づくり2008今こそ考えよう! 北海道の「みち」と「くらし」
倶知安商工会議所 会頭 川上 正宏氏

●「倶知安・ニセコエリアの観光について、さらに海外からの観光客を増やすためには、冬場は空港から安定的につながっていること。また、長期滞在の観光客はそこを拠点として色々なところに出かけて行く。ニセコ・倶知安という自然のなかに泊まってながら札幌での買い物など都会の魅力も味わいたい。そんな願いを叶えらる観光地にすることが通過型から滞在型へ変えていくために必要となる。早く移動ができる高速道路の整備は有効である。」



出典: 後志の道づくり2008今こそ考えよう! 北海道の「みち」と「くらし」

○医療をはじめとして、移動の不便さが、暮らしの安心を遠ざけているとの声がある。

▼しりべしにおける医療の現状



時間との戦いです。普通であれば問題とならない病気も、この地域では命に関わる状態に陥ってしまうのが現状です。(岩内消防署 救急係長 岩城氏)



しりべしには、分娩可能な医療機関が小樽と倶知安にしかありません。地域医療を担う倶知安厚生病院には、2時間ほどかかる地域からも妊婦さんが受診されており、多くの出産を取り扱っています。**通院にかかる時間が短縮されれば、患者さんの負担が大きく軽減されます。**(倶知安厚生病院 総務課長 井田氏)



岩内協会病院では、札幌から勤務医が来ています。診察開始時間に間に合わせるためには、朝早くから移動しなければなりません。しかも、その**経路には峠越えがあり、医師の肉体的・精神的負担になっています。**(岩内協会病院 事務次長 佐々木氏)
出典：日本の明日は「しりべし」にあり。
(平成20年11月しりべしに高速道路を実現する会)

【解決の鍵は、しりべしから手稲溪仁会病院へ、また倶知安厚生病院への時間短縮です。】



出典：日本の明日は「しりべし」にあり。
(平成20年11月しりべしに高速道路を実現する会)

通院の移動に対する心理的・身体的負担が少なくなります。

万一の時、これまでは命の覚悟をしていた病気でも希望が持てるようになります。

受診の利便性が良くなり、子供を持つことを考える場合のプラス要因になります。

出典：しりべしに高速道路を実現する会配布資料

「暮らし」の今日

万の時や
日常生活の移動の不便さが、暮らしの安心を遠ざけています。



北海道横断自動車道「黒松内～余市」の利活用で
北海道・日本全国を支えるしりべしの明るい明日が実現します。

出典：今日と明日をつなげるしりべし
(しりべしに高速道路を実現する会 平成21年12月)

「暮らし」の明日



▼暮らしの不安・地域の取り組み

【高齢者の不安】

自宅から高度な医療が受けられる病院までたどり着くには長い時間がかかり、万一の時など大きな不安を抱えています。自分で運転できない高齢者も多く、長時間の移動はドライバーの負担にもなっています。

【安心できる生活への努力】

町立寿都診療所では、内科・外科・小児科を設け、身体と心を幅広く継続的に診る医療を実践しています。**健康講座の実施などの予防医療や在宅医療にも力を入れています。**

【安心できる地域づくり】

児童養護施設つくし園では、様々な事情で家庭で暮らせない1才から18才までの子供たちが明るく元気に暮らしています。**老人福祉施設や身体障害者療護施設などの整備も進め、誰もが安心して生活できる地域づくりを動めています。**

▼シンポジウム等での意見



黒松内町商工会 会長 茂尾 実氏

第1次産業の衰退や後継者問題など、地域の商業は崩壊状態にある。これからの田舎は滞在型観光や二地域居住の提供といった、都市との交流で地域を保つべきと考えており、地域と都市とを結ぶ道路が必要である。また、田舎の医療の現状としては、**心筋梗塞または脳梗塞といった首から上の病気に死に等しく、地域の声という悲痛な叫びである。命の平等が守られていない。安心・安全はすなわち豊かさであり、豊かさの実現へむけた横断道の整備を熱望している。**

出典：しりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2009
後志の戦略的発展の実現に向けて～日本の明日はしりべしにあり～

■基調報告

後志総合開発期成会 会長 蘭越町長 宮谷内 留雄氏



後志総合開発期成会会長である宮谷内蘭越町長から「医師不足や総合病院がない後志管内の町村においては、救急救命医療対策は深刻な課題となっており、医療の過疎化に歯止めをかけることが喫緊の課題である。先般は蘭越町において脳障害によりドクターヘリを要請したが風雨で飛び立つことができず、救急車で搬送されたが時間を要したため若い命が絶たれたことがあった。安全で安心を守る命の道路として、振動や揺れの少ない、より高速走行が可能な道路の整備が急務である。」と概況を説明しました。

出典：後志の道づくり2008今こそ考えよう！北海道の「みち」と「くらし」

羊蹄山ろく消防組合 消防長 大柳 良夫氏

●「後志での高速道路整備の要望は20年続けられてきた。これまで個性ある地域づくりを進めてきており、都市と地方の交流の受け皿をつくった。しかしこれは高速道路を前提として進めてきたのでまちとしては不完全である。また、移住を促進させようにも、来ていただける方は病院などのことを心配する。小さなまち単独で高度な医療機関を持てるはずはない。高速道路がつながればそう言ったこともカバーできる。」

出典：後志の道づくり2008今こそ考えよう！北海道の「みち」と「くらし」



【防災救急】

羊蹄山ろく消防組合 消防長 大柳 良夫氏

管内の救急搬送の件数は年々増加している。その約2割が札幌や小樽などにある高度医療施設への搬送である。種穂峠や中山峠をかえ、特に冬期間は路面状態や吹雪などで危険に遭遇したことも少なくない。近年はドクターヘリが運用されているが、ヘリは天候に大きく左右される。フライトできない場合は救急車に切り替える。高速道路は命の道として必要不可欠。

アドバイザー 田村 亨氏

生存権の視点で見れば、医療上の課題への対処方法として、病院を造る・医者と呼ぶ、それが出来ないのであれば**高速道路を利用できるようにするべきと思う。2007年までは「均衡ある国土計画」で来られたが、現在は国土計画に理念がない。今は現場で起きている事を国民に伝えていけることが「国土計画」であり、その点でも地域の道路を利用したいという気持ちを伝えていかなければならない。**

出典：後志の道づくり2008今こそ考えよう！北海道の「みち」と「くらし」

出典：しりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2009

○有珠山の噴火災害では、物流事業者が迂回ルートを利用を余儀なくされるなど大きな影響があった。

▼災害時における工夫・対策



有珠山噴火など

危機管理としての道路網整備

平成12年の有珠山噴火では、道央自動車道を含め周辺の主要な交通網が被災し、復旧に多くの時間を要しました。この間、しりべしと札幌・函館方面をつなぐ国道5号や千歳や苫小牧方面をつなぐ国道276号などが、物流・人流の受け皿となりました。有珠山の噴火周期は20～30年に1度という専門家が、次の噴火にむけた危機管理として、代替路の整備が望まれます。



▲平成12年3月有珠山噴火



▲亀裂が生じ破壊された道央自動車道
平成12年4月20日 岡田弘氏撮影

災害による影響

有珠山の噴火災害で、物流事業者は迂回ルートを利用を余儀なくされ、輸送時間が1～2時間多くかかる事態となりました。商品の到着遅延など顧客に影響が及ばないよう出発時間を早めたり、在庫を5割程度多く持つといった努力で凌ぎました。また、観光では立ち寄り先やルートを変更して対応しましたが、キャンセルが多数発生するなど道央・道南の周遊観光を日玉とする地域に大きな打撃がありました。



出典：今日と明日をつなげるしりべし(しりべしに高速道路を実現する会 平成21年12月)

高速道路網の「今日」

有珠山の噴火災害で、物流事業者は迂回ルートを利用を余儀なくされ、輸送時間が1～2時間多くかかる事態となりました。

出典：しりべしに高速道路を実現する会 配布資料

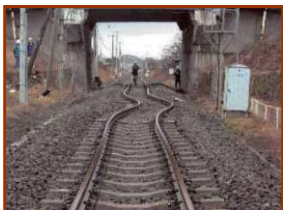
平成12年の有珠山噴火では、道央自動車道を含め周辺の主要な交通網が被災し、復旧に多くの時間を要しました。

出典：しりべしに高速道路を実現する会 配布資料

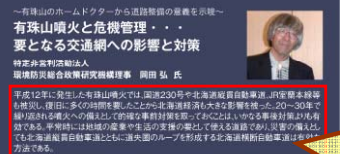
▼有珠山噴火時の道路・鉄道の被災状況



道央自動車道は隆起変動により数m押し出され、破壊された。



想定外の出来事であった鉄道線路の変形でJR本線も不通に。



出典：今日と明日をつなげるしりべし(しりべしに高速道路を実現する会 平成21年12月)

室蘭IC～長万部IC間には有珠山噴火により通行止め！

▼道央圏のループ



出典：今日と明日をつなげるしりべし(しりべしに高速道路を実現する会 平成21年12月)

特定非営利活動法人
環境防災総合政策研究機構 理事 岡田 弘氏

平成12年に発生した有珠山噴火では、国道230号や北海道縦貫自動車道、JR室蘭本線等も被災し、復旧に多くの時間を要したことから北海道経済も大きな影響を被った。

20～30年で繰り返される噴火への備えとしての確かな事前対策を取っておくことは、いかなる事後対策よりも有効である。平常時には地域の産業や生活の支援の要として使える道路であり、災害の備えとしても北海道縦貫自動車道とともに道央圏のループを形成する北海道横断自動車道は有効な方法である。

▼しりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2009での意見

ようてい農業協同組合 代表理事 専務 大野 利明氏

半路エリアの農産物は、8割を東京・関西に出荷している。特に馬鈴薯・大根・人参等重量野菜は高評価を頂いており、生産者は自信と責任を持って出荷している。ブランド価値向上には定期・定量・定出が大事であると感じている。流通の面では定時性の確保が付加価値向上にもつながり、輸送ルートを2系統、3系統持つことが出来れば安心である。災害時でも代替路が確保されるという点からも、横断道という輸送ルートに非常に期待している。



■基調講演「北海道・後志のこれから」

室蘭工業大学建設システム工学科 教授 田村 亨氏

昨年7月に出来た国土形成計画は、日本を10のブロックに分け各々の自立を目指すものである。北海道の持続ある発展を遂げる方策は、道内の多様な地域が各々の個性を生かして東アジアに対抗していくことである。今後の道路整備は、地域戦略を持っているところから行われる。後志地域はすでにシナリオが出来ている。札幌・新千歳空港とのつながりはもちろん大事だが、日本海側を向いて東アジアを見据えた地域づくりが重要である。

災害という視点からは、有珠山の大家である岡田先生によると次の噴火は2000年噴火より深刻で長期にわたる災害が発生する可能性があるとのことである。代替路としての役割も果たす横断道整備は、胆振地域、更にオール北海道からの後志地域への隘路である。

会場の方からの意見

函館商工会議所青年部総合政策室 副室長 松木 志津香氏

2000年の有珠山噴火時には、函館でも観光客が大幅に減少し、物資の輸送も停滞してしまっ。函館は道南にありながら道内の影響をとて受ける地域であり、隣接地域の横断道整備に非常に期待している。ごく最近、東京で余市産トマトを使ったカクテルの話で盛り上がり、余市はどのインターで下りれば良いんですかと聞かれ、説明に窮した。北海道の高速道路ネットワークの不足を実感した。今後も後志地域の方と一緒に勉強していきたいと思う。

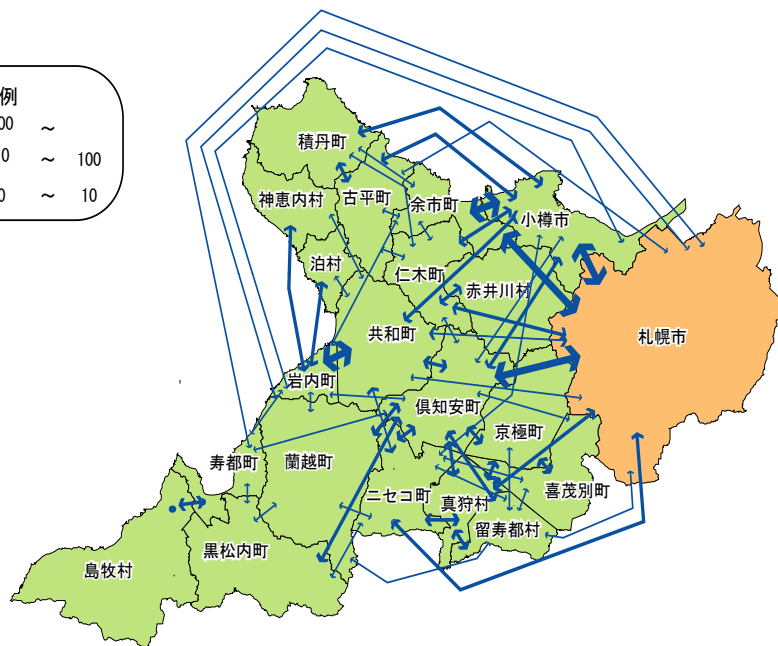


出典：しりべしのみちづくりを考えるシンポジウム2009
後志の戦略的発展の実現に向けて～日本の明日は「しりべし」にあり～

○そのため、倶知安から小樽への通学では、日々、往復120分(片道60分)の移動を強いられており、負担が大きい

凡例

	100	~	
	10	~	100
	0	~	10



資料：倶知安町役場ヒアリング
広域通学者の家族からのヒアリング

資料：中央バスHP、ニセコバスHP

○北海道や沿線各市町村の総合計画において、魅力ある観光地づくり、農水産業の振興、販路拡大、地域医療体制の整備、交通アクセスの強化（高速道路の整備）などが謳われている

(1) 総合計画

■ 第7期北海道総合開発計画

主要施策	内容（抜粋）
国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興	●国際競争力の高い魅力ある観光地づくり →広域周遊型観光の促進 →外国人や高齢者が容易かつ円滑に旅行できるような観光地づくり
国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築	■高速交通ネットワークの強化 →高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークの整備 ■国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化 →国際標準コンテナ車が支障なく通行できる幹線道路ネットワークの構築
魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり	▲都市における機能の強化と魅力の向上
頻発する自然災害に備える防災対策の推進	★根幹的な防災対策の推進 →集中豪雨や噴火等により発生する土砂災害に 対し、人命等を守るための土砂災害対策を推進 ★豪雪対策および積雪寒冷地域における防災対策の推進 →積雪寒冷地の特性を考慮した防災対策を推進

資料：国土交通省

■ 新・北海道総合計画（道央広域連携地域）

政策展開方針	内容（抜粋）
多彩な地域資源を活用した観光の振興	●魅力ある観光地づくり →道央各地の観光エリアを周遊する広域観光 ルートの形成
交流を支える基盤整備の促進	●『“しりべし”国際観光リゾートエリアの形成』* →外国人観光客の誘客促進と利便性の向上
交流を支える基盤整備の促進	■産業や生活を支える交通・情報ネットワークの形成 →高規格幹線道路の推進
安心で住みよいまちづくりの推進	▲地域医療提供体制の構築 ▲人口減少・高齢化に対応する社会の形成
安心で住みよいまちづくりの推進	★防災体制の整備 →有珠山などの火山噴火に備えた災害防止施設等の整備

資料：北海道

■ 各市町の総合計画

●：観光 ■：産業・物流
▲：医療・生活 ★：防災・災害

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	●交流観光サービスの魅力向上 ■北海道横断自動車道の整備促進 ▲身近な医療の確保 ▲消防・救助・救急体制の充実 ★防災体制の充実
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	●多様できめ細かなサービスメニューの創出 ■機能的な道路ネットワーク構築 ■広域道路網の整備促進（高規格幹線道路の建設促進） ▲地域医療体制の整備 ★防災体制の充実と危機管理体制の整備
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	●ニセコ観光を支えるソフトの充実 ●観光客の交通利便性の向上 ■利便性の向上や利用実態に合った道路ネットワークの整備 ★ニセコヘリポートの利用促進と維持管理経費の削減 ★安心・安全な生活環境づくり（災害に備えたまちづくりの推進）
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 (平成20年度～平成31年度)	●国際観光リゾート地の創出 ■豊かさや活力ある農業・農村づくり ■北海道横断自動車道建設促進 ▲安心・安全な生活環境づくり ★災害への備えの充実
共和町 第7次 共和町総合計画 (平成21年度～平成30年度)	●観光資源の保全 ■高規格幹線道路の整備促進 ▲地域医療体制の充実 ▲広域医療の確保、充実 ★防災、危機管理体制の整備・充実
仁木町 第4期 仁木町総合計画 (平成13年度～平成22年度)	●「見る観光」から自然を生かしたアウトドア活動をはじめ 個性的な地域の特徴を「体験する観光」へ ■安全で快適な道路づくり ▲広域医療ネットワーク強化による高次医療体制、緊急体制の充実 ★仁木町地域防災計画に基づいた防災体制の強化・充実
余市町 第3次 余市町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	●広域観光における拠点づくり ●観光ルートの整備促進とゾーン開発 ■高規格幹線道路 余市・小樽間の早期建設 ▲医療機能の充実、救急医療への迅速な対応 ★防災計画の充実、防災意識の高揚

資料：各市町村

(2)総合計画 <観光>

■ 第7期北海道総合開発計画

主要施策	内容（抜粋）
国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興	■ 国際競争力の高い魅力ある観光地づくり → 地域が主体となった取組の促進 (地域住民・NPO・企業など地域の様々な主体と行政の連携) → ゆとりある観光を促進するため良質なサービスの提供や関連する施設の整備の促進 → 広域周遊型観光の促進 → 外国人や高齢者が容易かつ円滑に旅行できるような観光地づくり ■ 地域経済を先導する観光産業の振興 → ニューツーリズムの創出・普及を産学官が連携して促進 → 地域資源を利用したその地ならではの製品の開発・販売やこれらの活用を促進

■ 新・北海道総合計画(道央広域連携地域)

政策展開方針	内容（抜粋）
多彩な地域資源を活用した観光の振興	■ 魅力ある観光地づくり → 多彩な観光資源のさらなる磨き上げ → 外国人に対する対応や、ホスピタリティの向上による受入体制の整備 → 道央各地の観光エリアを周遊する広域観光ルートの形成 ■ 地域交流の促進 → 都市と農山漁村の交流促進 ■ 地域プロジェクト 『北のゲートウェイ道央観光プロジェクト』 → 広域観光の推進 → 外国人観光客の誘致促進

■ 各市町の総合計画

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	■ 自然を活かす田舎づくり → 充実した観光情報の提供 → 交流観光を担う人材・組織との連携 → 交流観光サービスの魅力向上 → 新たな交流観光の創出
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	■ 体験と交流の“地域発観光”の推進 → こぶし咲くふるさとの風景づくり → “花のまちらんこし”づくり → 多様できめ細かなサービスメニューの創出 (広域観光の推進、観光基盤の整備促進)
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	■ “食・遊・癒”を満喫できる個性豊かな観光エリアをつくる → 四季を通して楽しめる魅力あるニセコ観光の充実 → ニセコ観光を支えるソフトの充実 → 観光客の交通利便性の向上 (道外観光客のニセコへの交通アクセスの向上)
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 (平成20年度～平成31年度)	■ 町の資源を活かすまちづくり → 国際観光リゾート地の創出 ■ 国際都市への基盤づくり → 北海道横断自動車道建設促進
共和町 第7次 共和町総合計画 (平成21年度～平成30年度)	■ 人と自然が共に生きる元気なまち → 観光資源の保全 → 観光資源の発掘、情報発信 → 受け入れ体制の充実 → 観光振興に向けた企画イベントの充実
仁木町 第4期 仁木町総合計画 (平成13年度～平成22年度)	■ “潤い”開発計画 → 「見る観光」から自然を生かしたアウトドア活動をはじめ個性的な地域の特徴を「体験する観光」へ → 観光協会をはじめ観光関連諸団体や産業団体との連携強化
余市町 第3次 余市町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	■ 地域に根ざした活力ある産業と魅力ある観光のまち → 広域観光における拠点づくり → 観光ルートの整備促進とゾーン開発 → 祭り・イベントの充実 → 観光推進体制の確立

(3)総合計画 <産業・物流>

■ 第7期北海道総合開発計画

主要施策	内容（抜粋）
食料供給力の強化 と食にかかわる産業 の高付加価値化・競争力強化	■食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化 →産地直送など多様な流通経路等による多様な食品の開発・普及の取組の促進 →東アジア地域等への農水産物・加工食品の輸出促進
国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築	■高速交通ネットワークの強化 →高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークの整備 ■国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化 →苫小牧港の国際海上コンテナや新千歳空港の国際航空貨物の輸送に係る機能強化の推進 →国際標準コンテナ車が支障なく通行できる幹線道路ネットワークの構築

■ 新・北海道総合計画(道央広域連携地域)

政策展開方針	内容（抜粋）
地域の特色を生かした多種多様な農林水産業の展開	■多様な農業の展開 →食育活動や都市と農村の交流を積極的に展開し、地産地消の推進 ■安定的な水産業の振興 →観光産業等との連携によるブランド化・消費拡大
交流を支える基盤整備の促進	■産業や生活を支える交通・情報ネットワークの形成 →高規格幹線道路の推進 ■地域プロジェクト 『“しりべし”国際観光リゾートエリアの形成』 →外国人観光客の誘客促進と利便性の向上

■ 各市町の総合計画

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	■自然を活かす田舎づくり →地域ブランド農業の推進 ■自然にやさしい環境づくり →北海道横断自動車道の整備促進 →北海道新幹線の建設促進
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 (平成22年度～平成31年度)	■安全・良質な食料生産と環境共生の持続的発展 →食と農の連携 ■安全と便利を確保し、人と町をつなぐ →機能的な道路ネットワーク構築 →広域道路網の整備促進(高規格幹線道路の建設促進)
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	■地域に密着した、元気あるニセコ農業をつくる →地元住民や他産業との連携による新たなニセコ農業の展開 ■人が主役で環境に優しい便利な交通ネットワークをつくる →利便性の向上や利用実態に合った道路ネットワークの整備 →ニセコヘリポートの利用促進と維持管理経費の削減
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 (平成20年度～平成31年度)	■町の資源を活かすまちづくり →豊かさと活力ある農業・農村づくり ■国際都市への基盤づくり →北海道横断自動車道建設促進
共和町 第7次 共和町総合計画 (平成21年度～平成30年度)	■人と自然が共に生きる元気なまち →産地、ブランド対策の促進 ■環境にやさしく、住みごこちの良いまち →高規格幹線道路の整備促進 →北海道新幹線の整備促進
仁木町 第4期 仁木町総合計画 (平成13年度～平成22年度)	■“潤い”開発計画 →共同出荷等による統一ブランドの推進 →農業の活性化に向けた各種農業農村整備事業の展開 ■“豊かさ”開発計画 →安全で快適な道路づくり
余市町 第3次 余市町総合計画 (平成14年度～平成23年度)	■地域に根ざした活力ある産業と魅力ある観光のまち →豊かさと活力ある農村の構築 →水産加工品のPRと販路拡大の推進 ■人にやさしい快適で機能的なまち →高規格幹線道路 余市・小樽間の早期建設

(4)総合計画 <医療・生活>

■ 第7期北海道総合開発計画

主要施策	内容（抜粋）
魅力と活力ある北国の地域づくり・まちづくり	■ 広域的な生活圏の形成と交流・連携強化 → 多様で個性のある広域的な生活圏の形成（交通・情報・人的ネットワークの強化を推進） ■ 都市における機能の強化と魅力の向上 → 都市型都市構造への移行（集約拠点へつながる公共交通ネットワークや道路ネットワークの強化の推進） → 都市の魅力・活力の向上（地域の協働によるまちづくりの展開を促進） → 冬も暮らしやすい生活環境の創造（快適な冬の生活環境づくりを目指した施策の推進） → ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたまちづくり（安心してこどもを生み育てられる環境の確保）

■ 新・北海道総合計画（道央広域連携地域）

政策展開方針	内容（抜粋）
安心して住みよいまちづくりの推進	■ 地域医療提供体制の構築 → 高度医療提供体制の整備 → 医療従事者の確保 → 医療機関相互の連携 → 保健・医療・福祉分野の連携 → 救急搬送体制の充実 ■ 人口減少・高齢化に対応する社会の形成 → 地域ぐるみでの子育て支援 → 住民、NPO、企業などの多様な主体の連携による地域ニーズへの対応や地域課題の解決の取組 → 医療、保健、福祉、介護の機能分担・連携

■ 各市町の総合計画

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 （平成22年度～平成31年度）	■ 人にやさしい田舎づくり → 身近な医療の確保 → 保健・福祉との連携 ■ 自然にやさしい環境づくり → 消防・救助・救急体制の充実
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 （平成22年度～平成31年度）	■ 生涯を通じた健康づくりに取り組む町 → 地域医療体制の整備（一次医療の充実、一次医療機関の「かかりつけ医」機能の充実） ■ みんなで取り組む 子育て・親育ちの実践 → 健やかに産み育てられる環境づくり
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 （平成14年度～平成23年度）	■ 日々健康を実感し、安心して暮らせるまちをつくる → 生涯を通じての健康づくり → 安心・安全な生活環境づくり ■ 安心して子供を産み、育てられるまちをつくる → 子育てをしながら安心して働くことができる環境づくりの促進
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 （平成20年度～平成31年度）	■ 一人ひとりを大切にするまち → 安心できる医療体制を整える → 生涯スポーツの促進や健康づくりへの支援 ■ 子どもが心身ともに健やかに育つまち → 母とこどもの健康の確保・増進
共和町 第7次 共和町総合計画 （平成21年度～平成30年度）	■ 共に創ろう、笑顔あふれる元気なまち → 地域医療体制の充実 → 広域医療の確保、充実 → 緊急医療体制の確保 → 子育て環境の整備
仁木町 第4期 仁木町総合計画 （平成13年度～平成22年度）	■ “安らぎ”開発計画 → 各年齢層に応じた健康管理の推進 → 広域医療ネットワークの強化による高次医療体制、緊急体制の充実 → 保育の充実、子ども会など地域での組織活動の支援
余市町 第3次 余市町総合計画 （平成14年度～平成23年度）	■ 健やかで潤いと安らぎのあるまち → 医療機能の充実（町内医療機関の施設・設備の整備、医療スタッフの充実） → 総合病院の役割と機能の強化 → 救急医療への迅速な対応

(5)総合計画 <防災・災害>

■ 第7期北海道総合開発計画

主要施策	内容（抜粋）
頻発する自然災害に備える防災対策の推進	■根幹的な防災対策の推進 →集中豪雨や噴火等により発生する土砂災害に対し、人命等を守るための土砂災害対策を推進 ■豪雪対策および積雪寒冷地域における防災対策の推進 →積雪寒冷地の特性を考慮した防災対策を推進
ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進	■地域防災力を向上させる取組の推進 →総合的な防災・減災対策の実施（被災地への緊急物資輸送等の確保、防災関係機関の連携強化を促進） ■災害に強いまちづくりの推進 →防災拠点となる公園・緑地、避難路、防災ステーション等の整備を推進

■ 新・北海道総合計画（道央広域連携地域）

政策展開方針	内容（抜粋）
安心して住みよいまちづくりの推進	■防災体制の整備 →有珠山などの火山噴火に備えた災害防止施設等の整備 →災害に強い道路・港湾・空港などの交通環境、森林・農地の整備などによる被害の防止・軽減 →地域防災力の強化（災害時要援護者対策や自主防災組織の育成）

■ 各市町の総合計画

市 町	内容（抜粋）
黒松内町 第3次 黒松内町総合計画 （平成22年度～平成31年度）	■自然にやさしい環境づくり →防災体制の充実（公共施設・個人住宅の耐震化の普及、緊急時における情報伝達機能の確立） →消防・救助・救急体制の充実
蘭越町 第5次 蘭越町総合計画 （平成22年度～平成31年度）	■みんな安全に暮らせる町 →防災体制の充実と危機管理体制の整備（災害時の連絡通信体制の整備、危機管理体制の強化） →防火・救急体制の充実（救命救助体制の充実）
ニセコ町 第4次 ニセコ町総合計画 （平成14年度～平成23年度）	■日々健康を実感し、安心して暮らせるまちをつくる →安心・安全な生活環境づくり（災害に備えたまちづくりの推進） ■人が主役で環境に優しい便利な交通ネットワークをつくる →ニセコヘリポートの利用促進と維持管理経費の削減
倶知安町 第5次 倶知安町総合計画 （平成20年度～平成31年度）	■安全に暮らせるまち →災害への備えの充実（防災体制の確立、公的施設等の耐震化、治山治水対策）
共和町 第7次 共和町総合計画 （平成21年度～平成30年度）	■環境にやさしく、住みごごちの良いまち →防災、危機監理体制の整備・充実（地域防災計画の見直し、避難所（場所）の表示・周知、ハザードマップの作成、災害・避難用品の整備）
仁木町 第4期 仁木町総合計画 （平成13年度～平成22年度）	■“豊かさ”開発計画 →仁木町地域防災計画に基づいた防災体制の強化・充実 →水防機材等の整備
余市町 第3次 余市町総合計画 （平成14年度～平成23年度）	■人にやさしい快適で機能的なまち →防災計画の充実（地域 防災体制の確立） →防災意識の高揚（防災意識の啓発活動の推進、初動期体制の確立）

本編(P5)観光の現状と課題に対応

— いつ訪れても心身ともに健康で元気になれる —

だれもが共感し 充実できる
悠悠(ゆうゆう)リゾート ニセコ

ニセコ町観光振興計画書



平成21年3月

ニセコ町

VI. 受入れ環境の整備 ～ 誰もが来訪・滞在しやすい環境づくり ～

●戦略の考え方

ニセコには国内外から多くの観光客が訪れていますが、外国語による観光案内機能の不備や、公共交通機関を利用したアクセスが不便といったように受入れ環境に課題があります。今後は、外国人観光客や高齢化した国内旅行者の増加が見込まれることから、誰もが安心してゆったりと滞在を楽しめるリゾート地に必要な環境を整える必要があります。また、将来的には北海道新幹線や高速道路の開通など交通手段に大きな変化が生じることが予想されています。そこで、現在起きている課題の解決に取り組むとともに、今後の動向を見据えながら観光客と地域にとって望ましい環境整備の検討を進めます。

●主要施策

1. 誰もが快適に利用できるリゾート地づくり

リゾート地とは、誰もが楽しめ何度も繰り返し訪れる場所のことです。現在、ニセコにはさまざまな場所や国から年間150万人もの観光客が訪れています。特に最近、アジア、オセアニアなどの国から注目されており、外国人観光客が急増しています。また、国内旅行者の年齢層は、人口の高齢化に伴い高まることが予想されています。こうしたことから、多くの人に認められるリゾート地を実現するため、外国人や高齢者、あるいは障害を持った人などの利用にも配慮した施設環境の整備に取り組めます。